

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-130188

(43) 公開日 平成5年(1993)5月25日

(51) Int.Cl.⁵

H 0 4 M 1/03

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 9077-5K

審査請求 未請求 請求項の数2(全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-288376
(22) 出願日 平成3年(1991)11月5日

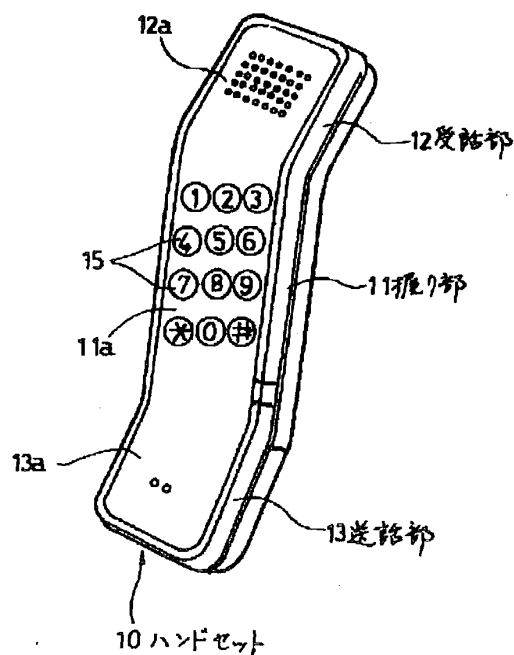
(71) 出願人 000003078
株式会社東芝
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
(72) 発明者 安藤 崇晴
東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1 株
式会社東芝日野工場内
(72) 発明者 井野木 俊弘
東京都日野市旭が丘3丁目1番地の1 株
式会社東芝日野工場内
(74) 代理人 弁理士 本田 崇

(54) 【発明の名称】 無線電話機のハンドセット

(57) 【要約】

【目的】 ポケット、ホルダ等へ挿入し易く、操作性を損うこともない無線電話機のハンドセットの提供。

【構成】 握り部11、受話部12及び送話部13は略同じ厚さに形成され、かつ、ハンドセット使用時に操作者側に向けられる前記各部11、12、13の面11a、12a、13aを基準として、握り部11と受話部12とは握り部の面11aと受話部の面12aとが180°よりも大きな角度をなす方向に屈曲させられ、握り部11と送話部13とは握り部の面11aと送話部の面13aとが180°よりも小さな角度をなす方向に屈曲させられている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 握り部とこの握り部の一端側に設けられた受話部と前記握り部の他端側に設けられた送話部とからなる無線電話機のハンドセットにおいて、前記握り部、受話部及び送話部は略同じ厚さに形成され、かつ、ハンドセット使用時に操作者側に向けられる前記各部の面を基準として、前記握り部と受話部とは前記握り部の面と前記受話部の面とが 180° よりも大きな角度をなす方向に屈曲させられ、前記握り部と送話部とは前記握り部の面と前記送話部の面とが 180° よりも小さな角度をなす方向に屈曲させられていることを特徴とする無線電話機のハンドセット。

【請求項2】 受話部の面と送話部の面のなす角度は略 180° であることを特徴とする請求項1記載の無線電話機のハンドセット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、無線電話機のハンドセットの形状に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図5に無線電話機に用いられている従来のハンドセットを示す。

【0003】ハンドセット1は、中央部位が握り部2、上部側が受話部3、下部側が送話部4とされており、受話部3及び送話部4は、操作者が操作し易いように、操作者側に向けて突出させられ、又、受話部3、送話部4の操作者に向けられる面3a、4aは所定の角度に傾斜させられている。

【0004】この従来のハンドセット1によると、衣服等のポケットや専用ホルダにハンドセットを収納するような場合に、受話部3及び送話部4の突出部分が妨げとなり、収納し難いという不具合があった。

【0005】また、この不具合を解決するべく受話部3及び送話部4を握り部2から突出させない構成としたものでは、ハンドセット1の使用時に握り部2を持つ手の指が操作者の顔に接触するので、操作者に不快感をもたらすという問題が生じる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上述の如く、従来のハンドセットは、受話部及び送話部が握り部よりも突出させられ握り部よりも厚くされていたので、ポケットやホルダにハンドセットを挿入し難かった。

【0007】本発明はこのような従来の欠点を解決するべくなされたものであり、ポケット、ホルダ等に挿入し易い形状とされ、操作性も損うことのないハンドセットを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明では、握り部とこの握り部の一端側に設けられた受話部と前記握り部の他端側に設けられた送話部とからなる無線電話機のハンド

セットにおいて、前記握り部、受話部及び送話部は略同じ厚さに形成され、かつ、ハンドセット使用時に操作者側に向けられる前記各部の面を基準として、前記握り部と受話部とは前記握り部の面と前記受話部の面とが 180° よりも大きな角度をなす方向に屈曲させられ、前記握り部と送話部とは前記握り部の面と前記送話部の面とが 180° よりも小さな角度をなす方向に屈曲させられた構成となっている。

【0009】また、受話部の面と送話部の面のなす角度は略 180° とすると良い。

【0010】

【作用】本発明のハンドセットは、受話部と送話部とは握り部と同程度の厚さとされているので、ポケット等の収納部へ挿入する場合に妨げとなる突出部分が存在しない。

【0011】また、握り部と受話部とは、握り部の面と受話部の面とが 180° よりも大きな角度をなす方向に屈曲させられているので、受話部の面を操作者の耳に近づけたときに握り部の面は操作者の顔から離れる状態となり、握り部と送話部とは、握り部の面と送話部の面とが 180° よりも小さな角度をなす方向に屈曲させられているので、送話部は操作者の口もとに近づく。

【0012】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図1乃至図4を参照して詳述する。

【0013】図1は無線電話機のハンドセットの斜視図、図2は上記ハンドセットの側面図、図3は上記ハンドセット使用時の説明図、図4は上記ハンドセットを胸ポケットへ収納したときの説明図である。

【0014】このハンドセット10は、図1及び図2に示す如く、握り部11、この握り部11の上部側にある受話部12、及び、握り部11の下部側にある送話部13は同程度の厚さにされており、ハンドセット10自体に突出部分を形成しない構成としてある。また、握り部11に設けられる操作スイッチ15も突起とならないように、シート状のスイッチが用いられている。

【0015】また、ハンドセット10の全体形状は単なる直線状ではなく、図2に示す如く、屈曲させられている。すなわち、ハンドセット10使用時に操作者側に向けられる各部11、12、13の面11a、12a、13aを基準として、握り部11と受話部12とは握り部の面11aと受話部の面12aとのなす角 θ_1 が 180° よりも大きくなる方向に屈曲させられ、握り部11と送話部13とは握り部の面11aと送話部の面13aとのなす角 θ_2 が 180° よりも小さくなる方向に屈曲させられている。

【0016】ハンドセット10は、上記の如く、突出部の存在しない棒状の形状となっており、図4に示す如く、胸ポケット等へ収納する場合に妨げとなる突出部分がなないので、ポケット等への挿入は容易となる。

【0017】また、ハンドセット10の使用時には、図3

3

に示す如く、受話部の面12aを操作者の耳に近づけても、握り部の面11aは操作者の顔から離れるので、握り部11を握る操作者の手の指が顔に触れ難い。また、送話部の面13aは操作者の口もとに近づくので、送話も良好となる。また、このハンドセット10の操作性の向上の面からすると、受話部の面12aと送話部の面13aとのなす角 $\theta 3$ は 180° 前後が良好である。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように本発明のハンドセットでは、全体が同程度の厚さに形成されており、ポケット等へ挿入する際に妨げとなる突出部分が存在しないので、ポケット等への挿入を容易に行える。

【0019】また、受話部の面を操作者の耳に近づけたときに、握り部の面は操作者の顔から離れ、送話部の面は操作者の口もとに近づくので、握り部を持つ手の指が

4

顔に接触し難く、操作性を損うこともない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る無線電話機のハンドセットの斜視図。

【図2】上記ハンドセットの側面図。

【図3】上記ハンドセットの使用時の説明図。

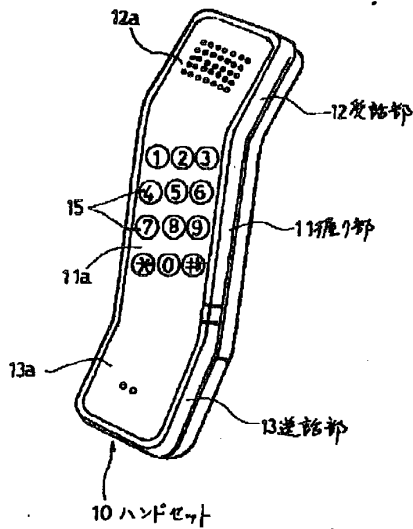
【図4】上記ハンドセットを胸ポケットに収納したときの説明図。

【図5】従来のハンドセットの側面図。

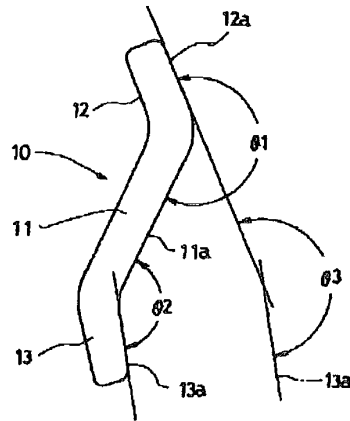
【符号の説明】

10	ハンドセット	11	握り部
11a	握り部の面	12	受話部
12a	受話部の面	13	送話部
13a	送話部の面		

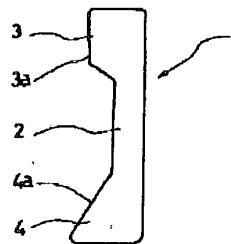
【図1】



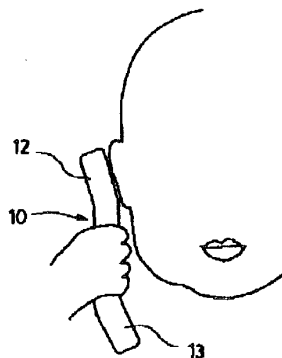
【図2】



【図5】



【図3】



【図4】

